

「すっきりアフリック」

JICAセネガル事務所メールマガジン 第106号

2015年6月08日配信

目次

◆巻頭言

「村を変えていくのは誰か」

- ・セネガル事務所次長
田中香織

◆活動紹介

「セネガル国天水稲作持続的
生産支援プロジェクト
(PRiP)」

- ・専門家 奥山洋大

◆われらが協力隊！

「研修開催にまつわる苦労話～
七転八起か七転八倒か？～」

- ・25年度1次隊
行政サービス 益田真理亜

◆人紹介

- ・保健、水・衛生分野担当
所員 岡田篤

◆ひといき

「天使の歌声：Le Choeur de
Dakar/ダカール合唱団」

- ・企画調査員（インフラ開発）
坂下優子
- ・企画調査員（人材育成）
船川夏子

◆事務所より

- ・研修・調査団
- ・行事
- ・人の動き 等

◆巻頭言 「村を変えていくのは誰か」

セネガル事務所次長 田中香織

5月中旬、ルーガ州の現在・過去案件のサイトを訪問した。

その中の1つ、ムフムフ村は、無償資金協力により給水塔が建設された村で、農村自立発展プロジェクト(PDRD)の対象村でもある。当時、水管理委員会(ASUFOR)の活動は活発で、給水塔と深井戸のメンテナンスに十分な資金を徴収・積み立てていた。しかし、村での中心的役割を担っていたマラブー(宗教指導者)が死去し(2007年頃)、後任の時代になると、一転、村のあらゆる権力を一手に集中させるようになった。資金力のあったASUFORも当然このマラブーの手中に入り、不透明な支出が繰り返されるようになった。この時期、ポンプの故障で給水塔が1年間停止するという不幸も重なった。ムフムフ村の地域は浅井戸も水位が低く、手でくみ上げる女性の重労働は計り知れない。女性の働き掛けで井戸の修理はなんとか終えたが、住民がASUFORに水代を支払う意欲はすっかり冷めてしまっていた。動きがあったのは、昨年2014年。マラブーの親戚がこのままではまずいと、マラブーに集中していた権力を一つずつ分散し始めたのだ。ASUFORは元代表が代表に返り咲き、2014年7月から本格的に活動を再開した。資金の出入りの透明化を図ったところ、料金支払いも徹底され、10か月後、同ASUFORの口座には650万CFAが積み立てられていた。400万CFAあれば、1年間の維持管理が賄える規模であるので、再開後の活動はうまくいっていると言えるだろう。



ムフムフ村の共同圃場

同じルーガ州のクール・モマール・サル(KMS)コミューン(行政単位)では、コミューン長にお会いした。昨年発表された、セネガルの地方分権化第3段階(Acte III de Decentralisation)は、地方自治体を県およびコミューンとし、一定の権限と交付金を現場レベルに委譲するということになっている。これまでの村落議会がコミューン議会となり、コミューン長が公選となった。KMSのコミューン長は、1976年以来村落議会の長を6期連続務めていて、昨年もコミューン長に当選したという昔ながらの政治家、という雰囲気である。コミューン議会の開催は不定期だというし、コミューン開発のビジョンを訪ねたところ、「資金を集めることじゃ」との答え。同行していただいたエコビレッジ庁のモリ氏は、(若干むきになって)村の理想の姿に近づくために、既存のリソースである政府の出先機

関や NGO 等とのコミュニケーションをよくし、支援を得ることの重要性を話したが、その間にも地域の有力者からの電話対応なども入り、コミュニオン長にはあまり伝わっていないようだった。KMS はギエール湖畔のコミュニオンで、湖の豊かな自然環境、KMS 浄水場という重要施設を擁しており、開発のポテンシャルは非常に大きいのに、コミュニオン長のリーダーシップはあまり見受けられなかった。3 つ目に訪問した村は、村長、伝統的村長、学校運営委員会の長、コミュニオン議会のメンバー、などのポストが重複なく分散されていた。訪問したのが学校で、その校長も若くてやる気に溢れていたせいか、一番村のパワーが感じられた。

セネガルの農業や産業のポテンシャル地域は、国土のごく一部であり、大多数のセネガル人は環境の厳しい農村に住んでいる。ルーガ州も、厳しい環境にある。長い時間をかけて住民レベルのガバナンスが改善の方向に向かっていくムフムフ村の例、逆に KMS のようにポテンシャルを生かし切れていない自治体、このほかにも様々な村やコミュニオンが散らばっているに違いない。JICA セネガルの農業・農村開発分野では、高ポテンシャル地域のみを対象として事業展開するのではなく、脆弱な環境の厳しい地域にも目配りをする必要があるのではないかと。セネガルでは、農村開発事業の経験が農業・林業・環境と JICA だけでも重層的にある。アセットと教訓を冷静に分析し、さらに地方分権化の進展状況、地域や村落のリーダーシップといった現状も踏まえて、新たな農村開発事業ができないか、農業班メンバーと頭を悩ませつつ、今後もさまざまな現場に足を運びたいと考えている。

◆活動紹介 「セネガル国天水稲作持続的生産支援プロジェクト(PRIp)」

専門家 奥山洋大

PRIp は、セネガル中央部、落花生盆地と呼ばれる地域において、稲作を振興するための技術協力プロジェクトです。この地域は雨量が少なく、名前の通り落花生が中心の農業が営まれており、稲作を行うには、やや厳しい環境ですが、種子の品質向上、現地の環境に適合した稲作技術の開発と普及、水田環境整備(畦作りと均平化)と維持管理等を通じ、地元の農民達が安定してコメ作りができるようになることを支援します。PRIp は昨年 10 月に開始され、今後 4 年にわたり実施されます。PRIp には日本人専門家 6 名、セネガル人専門家 1 名が配置され、これら専門家の活動を支援するため、現地人スタッフ 6 名、および現場普及員 6 名が雇用されています。総勢 19 名の大所帯ですが、うち 14 名が 20 代から 30 代という、若く、フットワークの軽さが売りのチームです。そして、みな真面目で、真剣にセネガルの稲作の将来、農民のことを考えていて、大変頼もしいチームでもあります。



プロジェクト対象地域の
低湿地における稲作の様子

選定、協力内容についての協議、圃場整備の準備等に、全員で打合せをし、現場に出向いています。

現在、セネガル政府は、コメ自給達成を国家の最優先施策として、さまざまな国や国際機関の支援を得ながら、コメの増産に努めています。具体的な目標は、2017 年末までに籾の生産量を 160 万トン(白米では

PRIp が開始されて以来 7 ヶ月が経ちましたが、これまで、実施体制の構築(事務所設置、現地スタッフ雇用、セネガル側との協議等)、現地の農業および社会経済現況調査、普及員や NGO、農民への稲作技術座学研修等が終わり、現在は、雨季作に合わせて圃場で実施する稲作研修や各種試験に協力してくれる稲作農家の



農民への稲作技術研修の様子

100 万トン)にすることですが、2014 年における粳生産量は 60 万トン強と言われており、あと 3 年で 100 万トンの増産を達成することが求められています。「無理でしょ」、と思われる方も多いでしょう。本当に、セネガル政府には申し訳ありませんが、日本では「あり得ない」目標です。しかし、政府が一生懸命、コメ増産を進めようとしている気概が伝わってくる数字でもあります。PRIIP の対象地域では、その他数多くの支援国や支援機関が、稲作支援にかかるプロジェクトを実施しています。PRIIP は、こうした関係機関との連携・協力も図りながら、当地域の稲作振興、コメ農家の生計向上と安定、ひいては政府の目標達成への貢献を願いつつ、活動を進めています。

◆われらが協力隊！ 「研修開催にまつわる苦労話～七転八起か七転八倒か？～」

25 年度 1 次隊 益田真理亜（職種：行政サービス、任地：ティエス）

こんにちは。ティエスの益田です。

さて、先日 5S-KAIZEN の研修会を企画したのですが、その時の苦労話を寄稿して下さいとの依頼がありましたので拙文ではありますが少々お付き合いください。

私はティエス州の州病院で 5S-KAIZEN 活動に取り組んでいます。ティエス州病院は 2010 年に 5S-KAIZEN を導入したのですが、思うように浸透しておらず、5S-KAIZEN 活動は単なる掃除キャンペーンのように捉えられているのが現状です。正しい認識を病院職員に理解してもらい、5S-KAIZEN 活動を活性化する目的で研修会を企画していたのですが、結局この研修会は開催できませんでした。

セネガルで研修会を開催しようと思った時に大きな問題となるのが、資金と日程の調整だと思います。今回もこの 2 点で大変苦労しました。隊員活動で資金が必要な場合には現地業務費を申請することができます。この現地業務費でほとんどのことが賄えますが、セネガルでの研修会(特に医療業界)では必ず支給されることになっている参加者への日当は現地業務費では賄えません。これをどう確保するか、または、なしで行えるよう説得するかで一苦労します。日当なしでは参加者が集まらないため、今回は病院が負担する手はずでした。

次に日時の設定です。何かを企画する時、始めに日時の設定をすると思うのですが、セネガルではこの通りには行きません。大抵の会議は開催の数日前に決まります。今回も設定した日が病院のストライキに被ってしまうという事態に。結局は度重なる延期によりこの研修会は中止となってしまいました。

病院全体の研修会は開催できませんでしたが、この研修会に招待していた医療会のボランティアとそのカウンターパートに向けて研修会と勉強会を予定通り開催しました。病院での開催ではなくなったため、参加者への交通費や日当は各ボランティアが負担することとなってしまいました。研修会ではカウンターパートに対して、5S-KAIZEN-TQM の概念の説明や実施例の紹介を行いました。勉強会では現地業務費を使った 5S-KAIZEN の導入方法の紹介や各々が活動先で抱えている問題点を話し合ったりして、参加して頂いた皆様のおかげでこの先の活動に役立つ勉強会になったのではないかと思います。特に印象深かったのがニオロから参加して下さったセネガル人病院スタッフ 4 名で、研修前と後では目に見えてモチベーションが上がっていました。



研修会参加メンバー

今回の件では悔しい思いもしましたが、最後には、参加して下さった皆様、いつも助けてくれるカウンターパートのおかげでこの企画をして良かったなと心から感じる事が出来ました。セネガルで何かを企画する時、文化・習慣の違いからスムーズに事が運ばないことが多いと思いますが、それにめげず果敢に挑戦してみてください。きっと何か得られものがあるはずです。

◆人紹介

保健、水・衛生分野担当 所員 岡田篤

こんにちは。昨年 9 月よりセネガル事務所で保健、水・衛生分野とギニアビサウを担当しています、JICA 職員の岡田と言います。三重県出身です。さて、ボランティアの方々に「事務所員の人ってどういう仕事しているのですか」ということをよく質問されますが、「企画調査員(ボランティア)の方とボランティアの方々の関係と同様で、私は専門家やコンサルタントの方々と仕事をしています」とお答えすると、イメージしやすいのかと思っております。もちろん、異なる点多々ありますので、この答え方が正しいかどうかは分かれるところかと思っておりますが。

例えば、事務所員は専門家やコンサルタントの方々のように、現場で活動を行うこともあります。特に昨年度は(今も続いています)各国のエボラ対策を支援するため、専門家の方々にお力添えをいただきながら、保健省等と協議を行い、①治療施設の整備、②隔離施設の整備、③医療従事者向けの研修を実施しました。

治療施設の整備については、赤十字と協議を行い、JICA が整地・盛土を担当し、赤十字が治療施設の建設を行うことにしました。②隔離施設の整備は、テントやそこに配置する医療資機材の仕様書を書くところから始めなければならず、関係者(MSF や赤十字など)から情報収集を行いつつ、業者とも意見交換をしながら、作り上げていきました。③医療従事者向けの研修については、対象者の優先順位をつけて中央レベル 1 回、州レベル 3 回、区レベル 4 回を実施しました。

他にもギニアやマリにも車両や医療資機材の供与を行いました。更にセネガル事務所では、WFP と連携してギニアにセネガル米を供与するといったウルトラ C の支援も行っています。これらの業務を通じて、「今、現場で求められている支援」を行うことのできる JICA という組織で働くことの面白さを改めて実感しました。



ギニア・マリ国境に配置した隔離施設



ナミブ砂漠の砂丘

ところで、私の趣味は「旅」なのですが、先日休暇をいただき、エチオピア(約 4600m のラスダシエン山に登頂)、ウガンダ(ナイル川でラフティング)、ルワンダ(ジェノサイドメモリアル巡り)、ザンビア(ビクトリアフォールズ)、ナミビア(ナミブ砂漠)を旅行してきました。次はセネガル国内を回りたいと考えていますので、是非とも一緒に！

それでは、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

◆ひといき 「天使の歌声:Le Choeur de Dakar/ダカール合唱団」

企画調査員(インフラ開発) 坂下優子(ソプラノ)

企画調査員(人材育成) 船川夏子(アルト)

今日は、我々が参加しているダカール合唱団をご紹介します。毎週月曜日の午後 7 時から午後 9 時まで、事務所近くのリセにて練習しています。モーツァルトやバッハ等のクラシックから、ロシア語、ポーランド語の歌、そしてセネガル現地語の乗りのいいゴスペルまで、レパートリーは広く、コンサートで歌う歌も盛り沢山です。

メンバーは、セネガル人、セネガル以外のアフリカ人(カメルーン、トーゴ、ガボン等)、欧米系の駐在員(中にはセネガル滞在歴 20 年以上のセネガル通も…)など様々。学生から定年後のシニアまで、老若男女かつ多国籍な合唱団です。

例年、6 月と 12 月に定期演奏会がありますが、今年は 6 月 12 日から 3 日連続。12 日は、オルガン伴奏、13、14 日は他のダカールの合唱団との共演です。今回のコンサートを、私(坂下)は、とても楽しんでいます。フランスの作曲家フォーレの「カンティック・ド・ジャン・ラシーヌ」という曲を歌うのですが、以前パリの女声コーラスのメンバーだった時に良く歌っていた大好きな曲で、今回は混声なのでバスとテノールが入りより荘厳なメロディーとなり、歌っていてうっとりします。声を出すとストレス解消にもなりますよ、皆さんも一緒に歌いませんか？



コンサートの様子

◆事務所より

◆安全情報

今年のラマダンは 6 月 15 日前後に始まるとされています。

ラマダン中は、特に日の入り前夕刻の時間帯、断食をしている人々の注意力や集中力が散漫になりがちですので、タクシー乗車など、特に「第三者に命を預ける」ことになる行為においては、日の入り前の時間帯を避けるなど、リスク軽減策に努めてくださるよう、お願いします。

◆健康情報

今月は「脱水症」のお話です。

体液が失われると「脱水症」という状態になります。脱水症は「水分と電解質が失われた状態」のこと。脱水症は単なる脱水(水の不足)ではありません。

脱水症は、汗などで体液が失われた場合、そして体液の供給が不足した場合に生じます。下痢・嘔吐や発汗などの体液喪失に対して、水のみを補充し続けると脱水症(低張性脱水)になってしまいます。

カラダから水分が失われると、それだけ血液(血漿)の量が減り、血圧が下がります。また、脳の血流が減ると集中力が低下しますし、消化管の血流が減ると食欲不振が起こります。同時に電解質が失われると、体液が濃い部分を薄め、薄い部分を濃くしようとする浸透圧が維持できなくなります。この作用はナトリウムイオンが多くを担っています。カリウムイオンやカルシウムイオンが不足すると、神経や筋肉に悪い影響が出てきて、脚がつったり、しびれや脱力が起こったりします。

経口摂取が可能なら、電解質を含んだ水分を摂取しましょう。スポーツドリンクはナトリウム濃度が低く、糖分が多いので、少し薄めて塩を入れて飲むと効果的です。経口補水液(薬局で粉のパックで売ってます)が一番適切ですが、お味噌汁等のスープ類で塩分補給、果物でカリウム補給、という方法も効果的です。

ひどくなると点滴で治すしかありません。そうなる前に、重症化を予防しましょう。

◆研修・調査団

・「劣化土壌地域における土地劣化抑制・有効利用促進のための能力向上プロジェクト(CODEVAL)」終了時評価(6/27-7/15)

◆行事

・ギニア・エボラ罹災者向け食糧援助(コメ)引渡式(6/12)
・アフリカ地域所長会議(7/13-7/15)

◆人の動き

・澁谷所員着任(6/16)
・浅川所員離任(6/24)
・小田原次長着任(7/13)
・岩本次長離任(7/22)
・27年度1次隊到着(6/30)
・25年度1次隊離任(7/5)

『すっかりアフリック(Suxali Afrique)』はウオロフ語で『アフリカの発展』を意味します。

セネガル事務所ホームページ内でもご覧いただけます！ <http://www.jica.go.jp/senegal/office/index.html>

◆メール配信希望募集

セネガル発『すっかりアフリック』(月刊)の配信希望を承ります。ご希望の方はその旨「JICA セネガル事務所広報タスク宛」に下記お問合せ先メールアドレスまでお知らせください。また、配信中止ご希望の方も同様にお知らせください。

◆記事投稿歓迎

記事の投稿を広く歓迎いたします(ただし掲載可否判断、校正等を編集部にてさせて頂くことがありますのでご了承ください)。皆さまからの興味深い記事をお待ちいたしております。

発行元:独立行政法人 国際協力機構(JICA) セネガル事務所

お問合せ: sn_oso_rep@jica.go.jp

JICAセネガル事務所 URL <http://www.jica.go.jp/senegal/>
